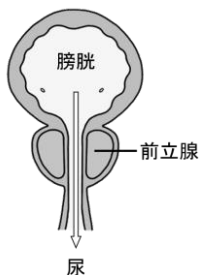


前立腺肥大症とは？



前立腺は男性だけにある膀胱に接触した生殖器官で、主に精液を作る役割があります。この前立腺が40歳を過ぎるころから徐々に大きくなり肥大して、尿道や膀胱を圧迫して尿の通り道を潰してしまう病気とされています。

年齢とともに進行していく疾患（進行性疾患）で、統計によると、55歳以上の男性の5人に1人は前立腺肥大症にかかっていると言われています。

どんな症状がでるのでしょうか？

症状としては、

- (1) おしっこが途切れる。若いころと比べておしっこに勢いが無い。お腹に力をかけておしっこをしている等の排尿症状
- (2) おしっこが残っている感じがする排尿後症状
- (3) 急に我慢ができないくらい、おしっこがしたくなる。日中おしっこの回数が多い。夜間睡眠中にトイレに2回以上起きるなどの蓄尿症状があります。

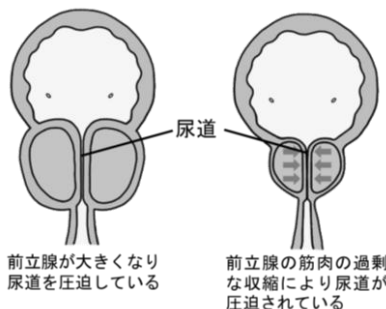


前立腺肥大症を診断するにはどんな検査をするのでしょうか？

一番は先生との問診（症状の確認）になります。その他に前立腺の大きさや形、残尿量を調べる検査として、超音波エコー検査、尿流測定。また、前立腺がんとの鑑別するための血液（PSA）検査等を行い、前立腺肥大症を診断します。

前立腺肥大症の治療は？

前立腺肥大症の治療は大きく分けると、**薬物療法・手術療法・保存療法**の3つがあります。血尿、尿路感染症、尿閉、膀胱結石、腎機能障害などの前立腺肥大症に伴う合併症がみられる場合は、手術療法が行われますが、それ以外の場合は薬物療法が行われます。



前立腺肥大症が尿の通過障害を起こす理由として2つのメカニズムが考えられます。ひとつは交感神経が緊張して、前立腺が収縮して、尿道を圧迫することで起こるメカニズム。もうひとつは、前立腺の収縮とは関係なく、大きくなった前立腺が物理的に尿道を圧迫して、通りを悪くすることによるメカニズムと2種類あります。



そのようなことから、使われる薬剤も大きく分けて2種類あります。ひとつは前立腺の平滑筋を弛緩し（緩め）尿道の圧迫を解除して、尿を通りやすくする薬剤です。もうひとつは、**薬物療法** 前立腺そのものを小さくして、前立腺の物理的な圧迫を軽減してあげる薬剤です。



手術療法 薬物治療を行っても症状が十分に改善しない場合や、さきほど書いた合併症がある場合は手術による治療が行われます。通常は尿道から内視鏡を挿入して行う手術が行われます。最近では、レーザーを使った新しい内視鏡手術も行われています。



保存療法 3つめの保存療法には、生活指導・経過観察・健康食品などがあります。水分を取り過ぎない等の生活上の注意は前立腺肥大症の症状を緩和することに役立ちます。また症状や合併症が無い場合は、治療の必要はなく、定期的な経過観察を行うケースもあります。

健康食品については、ビタミン・ミネラル・サプリメント・ノコギリヤシなど前立腺肥大症に有効と言われているものがありますが、科学的には有効性は示されておりません。

最後になりますが、今後高齢化にともない、前立腺肥大症の患者はますます増えていくことが予想されます。

若い頃に比べて、おしっこにかかる時間が長くなったとか、おしっこの回数が増えてきたとか、夜中におしっこのために目が覚めるなどの症状がありましたら、一度先生に診てもらうこともいいのではないのでしょうか？ 不自由な生活から脱出できるかもしれませんよ。（看護師 丸橋 節子）



ふれあい 曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2018年9月号
(第116号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



谷岡・棟近
西岡・福井
隅田・太田
山内・廣岡